

東京 IPO 特別コラム

2021年9月29日 Vol.182

新総裁誕生後の株式相場とIPO銘柄への期待

本コラムを目にされる頃には自民党の新総裁が決定していると思われるが、株式相場は誰が選ばれようともポジティブに受け止めているというのが大方の見方であろう。8月にお届けした前回の本コラムでは全体相場が調整の中にあり、投資マインドも委縮した中で多くの直近IPO銘柄にも下げ圧力が高まった中での状況をお伝えしたが、その後の反転相場はご存知の通り、TOPIXが先行して3月高値を更新したのに続き日経平均も2月高値を更新。笛や太鼓で投資家が踊り出すお祭りのような秋相場が繰り広げられた。そうした中で約2週間にわたって続いてきた自民党総裁選に本日決着がつく。

菅首相の不出馬を受けた株式市場では皮肉にも、これを好感した格好で上昇トレンドを見せた。不透明だった衆院選での自民党苦戦を株式相場はネガティブに見ていたという訳なのか、新たな総裁選びが各メディアで頻繁に取り上げられている中で新総裁が打ち出す政策への期待も高まる状況となってきた。同じ自民党内とは言え、4者の政策内容は明らかな違いがあり、最終的な判断は自民党員と議員票の結果で決まる。株式相場は誰を歓迎するのと言う点よりこうしたオープンな総裁選で各候補の真剣な議論を目の当たりにできたことの方が収穫だったと言える。総裁選の前に株式相場は中国の巨大不動産企業、恒大集団のデフォルトを心配しチャイナショックへの懸念を背景に下振れを演じたものの、ひとまずその懸念は薄らいだ。しかしながら火種は残っており、テーパリングを前にした米国株の調整とともに市場には高値警戒感も見られる。とりわけこれまで相場のリード役を担ってきた業績急向上の海運3社や中国関連の意味合いが強いソフトバンクグループなどは調整含み。全面高には至っていないものの、トヨタなど大幅な株価分割（本日5分割実施）銘柄や米金利上昇による円安メリットを受けそうなソニーなどハイテク系輸出関連銘柄など押し並べて堅調。

全体相場が嵩上げする中でこれまでやや元気のなかった直近IPO銘柄群にも関心が高まりつつある。この夏見られた新型コロナ第5波の流行もひとまず収束の動きで10月からは緊急事態宣言も解除され、これまで大型株に向かってきたリスクマネーの一部が中小型銘柄に移るとの期待も高まりつつある。直近IPO銘柄は初値こそ概ね堅調なスタートだが、上場後に大きく調整を見せる銘柄が相次いでいる。一方で今後の成長期待が高いDX関連のシンプレクスHD（4373・T1）のように上場時に穏健（公開価格1620円に対して初値は1660円）だった株価がその後急上昇を見せるなど投資家は冷静な目で見ているようだ。9月28日には4銘柄がIPOしてきたが、その中でキャッシュレス決済システムのジィ・シィ企画（4073）やネット決済代行サービスのROBOT PAYMENT（4374）など決済サービスに絡んだ銘柄が堅調。新総裁選後のIPO市場ではより一層成長を指向する企業への関心が高まりを見せるものと期待される。（東京IPOコラムニスト 松尾範久）